浜松南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

明日へ翔よ！

未来を我が手に

現実直視の眼を

「歳月人を待たず」というが如く時は無情にも過ぎゆき、今年も早三月、卒業の季節となった。これからさきの六年間ようとされている三年生の方々は、その門出を迎え胸が希望と不安で満ちあふれていることだろう。本校で過ごした六年間は今後のように有益なものとなっていくのだろうか。おそらくそれは今後の努力次第であり、今の時点では計り知れないもののように思える。願わくは、高校時代に得たこれらの貴重な経験が意義深いものとなっていくことを期待したい。長い人生の道程のほんの一部であるこれからの三年間は、悔いを残さぬよう有意義な生活を送ってほしいものである。

長い人生の道程の一部である高校時代に得たこれらの貴重な経験が意義深いものとなっていくことを期待したい。そして、自分が南高生であったことをいつまでも誇りに思っていてもらいたいものである。

——Part 1　普通科——

ご卒業をかねてお祝いします。

今、皆さんは小さな殻を破り、未来への大きな飛躍をする時節を迎えたのです。

皆さんの胸の中は、この南高校で過ごした思い出で満ち溢れていることでしょう。スポーツで汗を流したこと、勉強に打ちこんだこと。——決して楽しいことばかりではなかったと思います。それどころか苦しみ悩んだことのほうが多かったかもしれません。しかしこの苦しみ悩んだことが、きっと皆さんのこれからの精進の底力となっていくはずです。苦しめば苦しむほど人間は成長するのです。

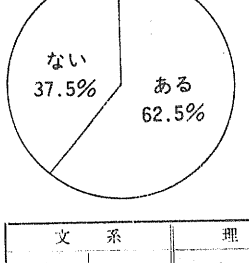
「卒業」そこには未来への輝かしい道が、皆さん一人一人の眼前に開けているのです。しかしその道は決して平坦な一本道ではないでしょう。山あり谷あり、沼や湿地もあり、道も曲がくねり、行き止まりがあり、数々の分岐点もあると思います。けれどもその一つ一つを乗り越えてこそ真の勝利者となりえるのです。それを通げ、安易な道を選べば、苦労も少ないかもしれません。しかしそれは事実上の敗北者なのです。皆さんはこの敗北者にならぬよう、この学びの舎で学んだすべての力でこれからの人生の苦悩と闘い、悔いなき人生を歩んでほしいと思います。

高校三年間——皆さんは恐らくこの時の流れの早さに驚かれていることでしょう。卒業生の皆さんばかりでなく、三年生も三年生も同じような感慨にふけっていることでしょう。しかし時の流れに流されてしまう事ほど恐ろしいものはないと思います。卒業生の皆さんは、それを身にしみて感じておられると思います。人間は活動をしています。努力すれば進歩します。しかし努力しなければ、進歩どころか、それは後退していることになるのです。静止——それは後退だから人間は己れのため、社会のため努力しなければならないと思います。目標を持ち、生きがいを見いだし、日々邁進されることを祈念しています。

さあ今、皆さんの目の前には新たな世界が展開されたのです。胸を張って歩き出してください。皆さんの踏み出す一歩一歩が未来を創造し、栄枯という足跡を残すでしょう。これから貴ていくことと思う。そして死の手段としては直接的なものと間接的なものとの二種がある。前者は戦争や殺人などであり後者は精神面における種々の病理現象である。当然アンネは前者によって殺されず友人達は後者によって彼らのプレーンを破壊されているわけである。

小説「足袋岬」の中に「生きることは苦しいことだが生きていることはどんなによいことかと言われた哲人や文学者の言葉が思い出される。

本年度よりの実施となった新制度入試。その共通一次試験の結果を紹介する。三・十四日にかけて行われた本校からも多数の生徒が受けたようだが、その結果は我が校のレベルから考えて苦しいものではないようである。全国目安計の平均点に比較しても全国平均の六三・〇七を、やや上回る結果だった。ちなみに全国における共通一次試験の結果を紹介する。最高点は九七、最低点は〇であった。平均点以上が五三パーセントを占め、六五〇ピークになっている。又、国公立合格の一例に比べ一層厳しいものとなることが予想される。



高校生活に何か心残りはあるか？

私大出願状況

文系		理系	
文	96	工	298
芸術	6	芸	2
文理	9	理	16
経済	170	医	3
経営	79	薬	15
法	104	文	17
商	83	文理	4
政経	22	農	10
社会	13	教	5
外	22	商	10
教育	8	経済	7
その他	15	経営	6
		その他	13

我が校の私大の学部別出願数を見てみると理系に於ては、工学部（理工を含む）の出願数が最も多く約三〇〇であった。次いで文学部・理学部・薬学部・農学部・商学部の順である。この結果から理系に於ては、工学部の人気が圧倒的に高いことがわかった。文系に於ては、経済学部が一七〇、法学部が一〇四、文学部が九六、商学部が八三、経営学部が七九であり以下政経学部、外国語学部と続く牛々厳しくなってきた社会状勢の中で、本年度も十月一日を皮切りに、就職試験が開始された。

最近の高校生の職業選択の条件は、何年か前の「収入」を第一条件にしていた時代とは違ってきているようだ。若い高校生には、「自分の好きな、興味のある仕事を……」という傾向が強い。本校の就職希望者は、あまり最近の傾向が強いとは言えないが、自分の適性にあった職業を選んでいるようだ。

ある新聞に、「給料も高く、厳しい仕事だけれど、好きで選んだ道だから……」と、自分の意志を貫こうとしているという記事が載せられていた。自分の意志を貫くことは、それ程簡単ではない。親の反対にあい、自分の夢を断念したり、したくもないこともあると思います。しかし、自分にあっている仕事でなければ、長くは続かないでしょう。

みなさんは、自分の意志を大切に、将来の夢に向かって突き進んでください。

ここで、本年度の卒業生の就職状況をまとめてみた。就職希望者は三九名で昨年と比較してやや増加していて、このうち二六名は既に各種の企業に就職が内定している。例年に増して厳しい就職戦線の中で、第一の人生に踏み出すことの難しさが、ひしひしと感じられたことだろう。業種別に今回の就職状況を見ると、卸小売業（四五）製造業（三〇）金融・保険・証券業（二五）サービス業（一四）運輸・通信業（八）ガス・電力（二）公務員（二）である。前記の結果から見ると卸小売業が昨年に比べて多く、全体の三十二％を占めている。これは、職業選択するその違いであろう。職業の選択というのは、自分の特性に基づいて行うもので、自分の一生の仕事を決定する上での柚となるとも言えよう。そのため、自分が中心となり父兄、先生との話し合いが綿密に行われる。このような結果は、社会状勢及び就職情勢の厳しさを、あからさまに語っているようだ。

次に、三年生に卒業にあたってのアンケートをとってみた。まず「卒業」という言葉から何を連想するかとの問いに対して一番多くあがった答えは、"思出"次いで"別れ"が二番を占めていた。他にも例をあげてみると、"仰げば尊し"、"はなむけの光"、"卒業証書"など卒業式に関係する答えもあがっていた。学生生活に、ピリオドを打って、新鮮な気持で社会へ巣立っていかれる三年生方に、これからも輝ける期待感、それぞれの夢を抱いて社会人となって第一歩を踏み出して行く不安感がこのような答えになって表れてきたのだと思う。

次に高校時代に一番思い出に残ったことを尋ねてみると、"部活動"、"先生との交流"、"文化展"が上位を占めていた。このことから、「学校」という一つの集団生活の中で、友という存在の占める割合が大きいことが窺われる。また、三年間の学習で通じた農業を知り、進路を決定するまでに自分を導いてくださった先生方への尊敬から生まれてくる感謝の情といったものが感じられた。

次に高校生活に何か心のこりはありますかという質問に「ある」と答えた人は、全体の六一・五％「ない」と答えた人は三七・五％いた。「ある」と答えた人は、"勉強をもっとやっておけばよかった"、"部活動をもっとしっかりやればよかった"、"修学旅行、行きたかった"、"あこがれの人と話をしてみたかった"などをあげていた。

次に、多様化している職業の中で、どんな考えで進路を決定したのか聞いてみると、多くの人が一番に"給料が良いところ"を挙げていた。次に多くあがっていたのは"交通の便の良いところ"、"自宅から近いところ"だった。以下"自分の適性に合ったところ"、"休みのきいところ"などが続いていた。しかし、実際には長く本校の中、青春を過ごした、思い通りの職場に就くことはむずかしかったようである。

最後に卒業に際しての抱負を述べてもらった。そのうちいくつかを紹介してみると、

"明日の夢の実現！"

"部活動をやり残してきたから、後輩をもっと力強く歌う"

"卒業を迎えるにあたって、大変考えさせられた。自分に適した職業、同時に興味のある職業を選択するには、並々ならぬ努力を必要とする。先生方の相談を受け、家族の話し合いをもった結果、やっと決定することができた。"

などであった。さらに、悩み深い進路のことを、アンケートを通してもわかるように前向きになって表われたのである。私たちは、先輩からの"後輩に残した若さに言葉"をしっかりと心に刻んで、新たな洋度をむかえたいものである。

早いもので昭和五十三年度もあすかになり、ぼくは卒業式を残すのみである。卒業を数週に控えた新しい道を確実に歩んでいくことを心から祈りします。

論説

虚無からの脱出

今年はアンネ・フランクがこの世に生を受けてから五十年目に当たるという。別に彼女の戦争反対風潮的なものを再び論じ立てるつもりは毛頭ない。そんなことをしてもどうなるものでもない。しかし彼女は極めて冷静に自己についての"生きること"を把握し得た数少ない女性の一人ではないだろうか。

彼女は古いところでは、シャンヌ・ダルクやマリア・テレサ、最近ではガンジー前首相のような偉人ではないが、かといって部屋の中でただひたすら自己を満足させていただけの陰湿な女性でもあるまい。彼女には聡明さ、謙虚さ、あったのは"ひたむきな生活"のみである。

不確実性の時代ときかんに言われた時期は去ったものの、そう言われただけあって現代社会は実に複雑としている。その中においては種々雑多な生業体が林立しており、そしてその特徴といえばフルマの進展、ホワイトカラー族の増大、コンピュータ化による画一的人間の絶え間ない誕生。

高校生にしても同様である。学業におけるノルマ、達成目標とされ、やはり機械化されの戦争反対風潮的なものを再び論じ立てるつもりは毛頭ない。そんなことをしてもどうなるものでもない。しかし彼女は極めて冷静に自己についての"生きること"を把握し得た数少ない女性の一人ではないだろうか。

彼女は古いところでは、シャンヌ・ダルクやマリア・テレサ、最近ではガンジー前首相のような偉人ではないが、かといって部屋の中でただひたすら自己を満足させていただけの陰湿な女性でもあるまい。彼女には聡明さ、謙虚さ、あったのは"ひたむきな生活"のみである。

不確実性の時代ときかんに言われた時期は去ったものの、そう言われただけあって現代社会は実に複雑としている。その中においては種々雑多な生業体が林立しており、そしてその特徴といえばフルマの進展、ホワイトカラー族の増大、コンピュータ化による画一的人間の誕生である。

—中心主義

生徒会

主体性貫く

会員の自覚に期待

五十三年度後期生徒会活動もう終盤である。国井会長以下各委員は懸命な活動を昨年二学期以来繰りひろげてきたわけにはもう一つ印象がパッとしなかったように思われる。もっともいくら生徒会が一生懸命に種々の行事を催しても会員である我々が非協力的なのではどうしようもないわけだが。

この号が発行されている頃には本年度生徒会最後の行事ともいえるカルタ大会も終わっているはずである。カルタ大会は一月十日八日の両日にかけて行われたはずである。また生徒会には球技大会も予定しているようであるが、こちらのほうは現段階でははっきりしていない。

さて二学期以来の生徒会の手で行われた主要行事をここでふりかえってみることにしたい。

まず何についても体育大会がその筆頭にあげることができると思う。天候には恵まれなかったものの各クラス間の団結力をあそこまで高めのはし生徒会執行部の力には感心させられたし、一昨年の体育大会よりもさらに素晴しいものだったと思う。

二学期はその他はこれといった活動はしていなかった。

次には一月二十一日に体育館で行われた予餞会がある。詳しいことは予餞会の記事を参照していただきたいのだが大成功におわった。とはいえ進行におけるミスが若干あったが。――しかしそれをより悪くしたのは我々会員一同の態度であったと思う。我々のマナーをもっと反省すべきだ。

どうもどう書いていると本年度後期生徒会を批判しているようだが、それなりに良い点があったことも事実だ。

盛り上がりにやや欠けた行事ではあっても、それ以前の入念な練習は特筆すべきであろう。予餞会などでは一月二十八日、一日中をリハーサルに費したというから、そういった点では評価できる生徒会であった。

五十四年度の生徒会ははたしてどのようなものになるだろうか。一月二十日をもって立候補受付は締切られた。その時点では会長候補として鈴木徹(22HR)、副会長候補として中村良彦(25HR)、井上きく代(19HR)の三名の名が挙げられている。

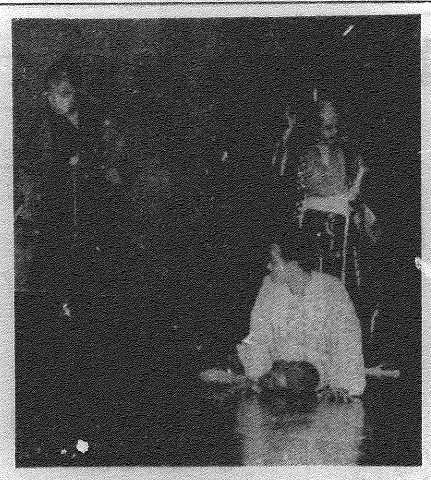
この学校に於てはこれ程委員会による選出でない立候補は極めて珍しいことであり、今回の役員選挙は非常に気になるところである。既に結果はこの号発行時には明らかになっているはずであり、新生徒会役員についての詳しい報告は第五十五号新聞紙上に於て発表できるはずである。なお選挙は二月十四日その前日である十三日には立会演説会が行われた。国井会長に来期生徒会に対する要望を述べてもらった。それを要約すると

○生徒総会の実施
○生徒総会機関紙発行
○生徒昇降口の整備

以上であった。ときかく既成生徒会の活動には見られなかった「新鮮さ」を要求しているように思われる。生徒総会実施などは好好例であろう。これらの諸活動が来期生徒会の役員によって実現されることを期待する。

現生徒会役員に二学期以来の活動について、現在どう思っているのかについての意見を求めると「内部での不一致が多く、しっくりいかなかった」という返事がきたが、これは組織にあろう。確かに非常に自主まじめな活動を行ったというわけではない。しかしそうかといって会然自主生徒会ではなかったと思う。百人弱居て八十五点くらいという評価が妥当ではなかろうか。生徒達の中には後期生徒会を批判する人もいたが、よくやった、という感じの方が強いように感じる。

また後期生徒会員の印象は忘れるまでには若干の時間がかかる。もう主要行事は消化されてはいるものの、期間中は役員なのだから最後までベストを尽くしてもらいたいものだと思う。そしてここまで会員の非協力的態度にあかみず頑張ってきた生徒会執行部に対してはきらいの言葉をかけてあげたいものだ。



生徒会行事の一環として行われた予餞会

予餞会

気炎万丈

感動を呼ぶ

去る一月三十一日、本校体育館において、副会長の開会宣言により予餞会が開かれた。模擬は強制参加による第一部と自由参加による第二部とに分けられていた。

プログラム第一部は、管弦楽部の演奏に始まり合唱部、創作ダンス部、演劇部の各部の発表が行われた。第二部は、自由参加のたりか少々空席もめだったが、会を一層盛りあげたのは自慢大会、有志バンドによるロックの演奏が行われた。以下発表内容を紹介していく。

まず去る一月十四日に浜松市民会館において行われた第十七回定期演奏会で発表を終えたばかりの管弦楽部の『DO IT BANG BANG』『ヤマトよの愛をこめて』の演奏で始まった。続いて、フジTV放映『銀河鉄道999』のテーマ。そして最後に、定期演奏会でも好評であった大河ドラマ放映『黄金の日々』のテーマで幕を閉じた。管弦楽部は定期演奏会発表後、短期間ではあった練習を豊富で、聞く人を楽しませてくれた。この会のためにエレキギター、ドラム、そして特別にサックスホーンを取り入れての演奏を行ってくれた。今までとは一味違った面も披露してくれた。

ここで、三年生から校に卒業記念品目録の贈呈が行われた。

そして少数ではあるが、美しい歌声を聞かせてくれた合唱部と続いた。まず、カラオケを使用したアリスの『遠くで汽笛を聞きながら』で始まった。暖かいメッセージを加えながら、別れをテーマにした因幡晃の『わかれ』『おぼえていますか』『思い出』『わかってください』を心をこめて歌ってくれた。そして、人生を歌い上げた名曲『マイ・ウェイ』と、力のこもった歌でしめくくった。のびのある澄んだ声の中にも、優しさや力強さが感じられた。

次に創作ダンス部が、『冒険』というテーマで未知への挑戦への期待と不安を表現してくれた。それから一転して、『炎』というテーマで人の心の中にある情熱を、ダイナミックに表現してくれた。新世界にはばたこうとしている三年生の方々が、その人なりに何かを感じとってくれたのなら……。

そして第二部最後の演劇部は、『雪女顛末記』を上演した。三年生の特別出演による愉快な戦隊が印象的だった。極限に立たされたとき、冒険心の興奮に満ちている何かが現れるという人の一面を描いてくれた。自分の生命が惜しいと思う人間を裏切った男のラストシーンに投げ掛けられた声が、心に残る。

体育館はさらに第二部が始まった。大きな拍手と共に、のど自慢大会の幕開けとなった。会進行に配られた用紙に必要事項を書き込み、そのあと五人ぐらいずつ献血車に乗り献血を行なった。

まず健康診断を受け、献血しようかが血液検査を受けた。中には低血圧や血管が細いということで断念せざるを得なかった人も幾人かいた。

通ったものは、それからベッドにあおむけになり右腕あるいは左腕で約五分間程採血した。終ったら乳酸飴を飲み献血手帳とネオルゲンをもらいバスを降りた。

この献血は続いて感じたことの一つとして、一人の採血量一百CCという量が普段私達が考えた半乳瓶一本という感覚よりも多くはなかったという事だ。中には初めて、この量に無意識感じた者もいたようであったが、いざ採血してみるとなんとなく違和感を覚えたものもいるであろう。

根間の意義はあると思う。

根間の意義は自然に死ぬのではなくて不慮の事故や病気によって命を落とすことは悲しむべき事である。それでもそのような事故は減らすことはできてもなくすことは当分不可能である。しかしいくら医学が進歩しても、結局最後自分の身体を直すのは自分自身の身体である。だから生命の根源ともいえる血液を通わせることは必要である。

最近の新聞による冷凍血液の開発が日本でなされ、冷凍血液製造装置とよばれる世界でもあまり例のない装置が大阪の会社の手により造られたそうだ。この装置は遠心分離装置、赤血球用の急速凍結装置、血小板用の冷凍装置、凍結貯蔵庫、解凍装置などから成り、血液を赤血球、血小板などの成分別に分離し、液体窒素を使って冷結保存し、必要なときに素早く、大量に解凍して使用することができるそうだ。またこの装置のメリットは、①血液の長期保存が可能で、毎年七〇。②採血後すぐ冷凍すれば、新鮮血としていつでも利用できる。③RHマイナスなど型の少ない血液の保存ができる。④輸血による血清肝炎の発症率をゼロに下げることができる。一方で、血液不足の解消消滅又一歩人々が快適にすごすことが可能になってきている。

献血

生命の根源

去る一月九日、十日、十二日、十四日、十七日、二十四日と希望者による献血が行われた。この献血は、先生方が生徒に希望者を募ったのでクラスによって人数の差が現われ、あるクラスでは、三人あるクラスでは、三十人を超すという具合にちらばりを示した。そして学校全体で、百九十六人という希望者があらわれた。

献血希望者は、最初に採血室で大会の幕開けとなった。会進行に配られた用紙に必要事項を書き込み、そのあと五人ぐらいずつ献血車に乗り献血を行なった。

まず健康診断を受け、献血しようかが血液検査を受けた。中には低血圧や血管が細いということで断念せざるを得なかった人も幾人かいた。

通ったものは、それからベッドにあおむけになり右腕あるいは左腕で約五分間程採血した。終ったら乳酸飴を飲み献血手帳とネオルゲンをもらいバスを降りた。

この献血は続いて感じたことの一つとして、一人の採血量一百CCという量が普段私達が考えた半乳瓶一本という感覚よりも多くはなかったという事だ。中には初めて、この量に無意識感じた者もいたようであったが、いざ採血してみるとなんとなく違和感を覚えたものもいるであろう。

根間の意義はあると思う。

根間の意義は自然に死ぬのではなくて不慮の事故や病気によって命を落とすことは悲しむべき事である。それでもそのような事故は減らすことはできてもなくすことは当分不可能である。しかしいくら医学が進歩しても、結局最後自分の身体を直すのは自分自身の身体である。だから生命の根源ともいえる血液を通わせることは必要である。

最近の新聞による冷凍血液の開発が日本でなされ、冷凍血液製造装置とよばれる世界でもあまり例のない装置が大阪の会社の手により造られたそうだ。この装置は遠心分離装置、赤血球用の急速凍結装置、血小板用の冷凍装置、凍結貯蔵庫、解凍装置などから成り、血液を赤血球、血小板などの成分別に分離し、液体窒素を使って冷結保存し、必要なときに素早く、大量に解凍して使用することができるそうだ。またこの装置のメリットは、①血液の長期保存が可能で、毎年七〇。②採血後すぐ冷凍すれば、新鮮血としていつでも利用できる。③RHマイナスなど型の少ない血液の保存ができる。④輸血による血清肝炎の発症率をゼロに下げることができる。一方で、血液不足の解消消滅又一歩人々が快適にすごすことが可能になってきている。

素さに負けず

部活動

奮闘目立つ

本年度の活躍

暖冬というものの冷たい風が頬をさす日々の中で、各部、同好会とも練習に励んでいるようだ。

本年度は、女子バスケット部のインターハイ、国体への出場、女子ハンド部の県大会第三位など立派な成績を修め、各部とも盛り上ったようである。

そこで今回は、本年度における各運動部の成績を掲載してみた。

◇バスケットボール〔女子〕
○インターハイ西部予選
一回戦　対横須賀　100－42
二回戦　対磐田商　89－34
準々決勝　対浜東　74－54
準決勝　対信愛　57－60
三位決定戦　対誠心　66－58
○インターハイ県大会
一回戦　対川根　88－50
二回戦　対三陽北　89－50
準々決勝　対静岡精華　56－52
○決勝リーグ
対清水西　61－58
対浜松商　67－50
対磐田　61－38

◇バスケットボール〔男子〕
○インターハイ西部予選
一回戦　対豊城　84－79
準決勝　対岐阜女商　68－63
決勝　対市邨　58－75
○インターハイ（於山形）
一回戦　対松本蟻ヶ崎　77－74
二回戦　対旅本高綱　81－57
三回戦　対半都宮高商　84－80
準々決勝　対宮崎小林　60－84
○県総合大会兼東海予選
一回戦　対精華クラブ　48－41
二回戦　対静岡教員　66－60
決勝　対清西クラブ　51－47
○国民体育大会
一回戦　不戦勝
二回戦　対滋賀県
三回戦　対兵庫県　敗退
○新人戦西地区
一回戦　対堀越
二回戦　対浜名
三回戦　対浜名
準決勝　対浜東
三位決定戦　対誠心　37－39

◇バレーボール〔女子〕
○インターハイ予選
一回戦　対浜松東　2－1
二回戦　対浜松市立　0－2
○新人戦西部地区
一回戦　対日体　0－2

◇バレーボール〔男子〕
○インターハイ予選
一回戦　対優井商　1－4
○新人戦西部地区
一回戦　対優経　0－2

◇庭球〔女子〕
○高総体予選（団体）
一回戦　対沼津東　2－1
二回戦　対掛川東　0－3
○新人戦西部地区（団体）
一回戦　対気賀　0－3
（個人戦は省略）

◇庭球〔男子〕
○高総体県大会（団体）
一回戦　対豊橋東　1－2
○新人戦西部地区（団体）
一回戦　対磐経　2－1
二回戦　対浜東　1－2
（個人戦は省略）

○東海大会
一回戦　対聖城　84－79
準決勝　対岐阜女商　68－63
決勝　対市邨　58－75
○インターハイ（於山形）
一回戦　対松本蟻ヶ崎　77－74
二回戦　対旅本高綱　81－57
三回戦　対半都宮高商　84－80
準々決勝　対宮崎小林　60－84
○県総合大会兼東海予選
一回戦　対精華クラブ　48－41
二回戦　対静岡教員　66－60
決勝　対清西クラブ　51－47
○国民体育大会
一回戦　不戦勝
二回戦　対滋賀県
三回戦　対兵庫県　敗退
○新人戦西地区
一回戦　対堀越
二回戦　対浜名
三回戦　対浜名
準決勝　対浜東
三位決定戦　対誠心　37－39

◇バスケットボール〔男子〕
○インターハイ西部予選
一回戦　対横須賀　100－42
二回戦　対磐田商　89－34
準々決勝　対浜東　74－54
準決勝　対信愛　57－60
三位決定戦　対誠心　66－58
○インターハイ県大会
一回戦　対川根　88－50
二回戦　対三陽北　89－50
準々決勝　対静岡精華　56－52
○決勝リーグ
対清水西　61－58
対浜松商　67－50
対磐田　61－38

◇バレーボール〔男子〕
○インターハイ予選
一回戦　対優井商　1－4
○新人戦西部地区
一回戦　対優経　0－2

◇庭球〔女子〕
○高総体予選（団体）
一回戦　対沼津東　2－1
二回戦　対掛川東　0－3
○新人戦西部地区（団体）
一回戦　対気賀　0－3
（個人戦は省略）

◇庭球〔男子〕
○高総体県大会（団体）
一回戦　対豊橋東　1－2
○新人戦西部地区（団体）
一回戦　対磐経　2－1
二回戦　対浜東　1－2
（個人戦は省略）

◇水泳
○インターハイ西部予選
男子四百M リレー　予選一位
決勝　7位　4分26秒28
○インターハイ県大会
男子四百M リレー　11位　4分28秒40
○新人戦西部地区（個人は省略）
男子四百M リレー　6位
○新人戦県大会
男子四百M リレー　県19位

◇剣道
○高総体予選（個人戦は省略）
一回戦　対磐田　2－1
二回戦　対浜名　0－2
○八幡宮奉納大会
男子団体優勝
○新人戦西部地区
男子　対一方日　1－3
女子　対一方日　5－0
対牧北　0－5
○市スポーツ祭
男子B　対湖東　3－2
準決勝　対浜工　2－1
決勝　対興誠　2－3

◇サッカー
○高総体西部予選
一回戦　対優井商　4－0
二回戦　対浜名　0－3
○サッカー選手権
対浜商　1－4

◇ハンドボール〔女子〕
○高総体予選
一回戦　対浜西　6－5
二回戦　対気賀　6－3
三回戦　対清水西　8－0
準決勝　対可保　5－6
三位決定戦対御殿場　9－11
○県スポーツ祭
一回戦　対吉原商　8－1
二回戦　対清水西　4－5
準決勝　対一保　4－5
三位決定戦対御殿場　4－2
○馬場杯
対可保　3－3
対気賀　4－5
○市スポーツ祭
対気賀　5－2
○新人戦県大会
一回戦　対菅北学園　5－3
二回戦　対吉原　6－5
準決勝　対城北　2－13
三位決定戦対御殿場　5－2

◇ハンドボール〔男子〕
○高総体予選
一回戦　対浜西　2－3
○新人戦西部地区大会
リーグ戦
対掛川工　10－2
対引佐　2－2
対湖東　1－2
トーナメント
対浜商　0－1
対浜北　0－5
対城北　0－4
○市スポーツ祭
一回戦　対城北　5－4
二回戦　対気賀　5－12
○新人戦県大会
一回戦　対浜工　8－2
二回戦　対掛川　1－19

◇ソフトボール〔男子〕
○インターハイ予選
一回戦　対浜松校　19－3
二回戦　対沼津学園　10－12
○新人戦西部地区
一回戦　対浜松校　15－16

◇卓球〔男子〕
○インターハイ予選
一回戦　対池新田　4－1
二回戦　対浜松東　0－4
（個人戦は省略）

◇卓球〔女子〕
○インターハイ予選
一回戦　対三ケ日　1－4
（個人戦は省略）

◇柔道
○インターハイ予選
対下田南　0－5
○新人戦
一年
対磐南　4－1
対浜商　0－5
対興誠　敗退

コラム

虚空蔵寺縁起の砲台

我が校のまわりには数多く伝えられてきている民話など、意外とたくさんある。今回はこういった民話と新橋虚空蔵寺にスポットをあててみた。

新橋虚空蔵寺

虚空蔵寺は以前山号即ち金剛山、寺号を霊厳寺と称していた真言宗の寺であって、当初は厳霊を崇めたものらしい似後数回の盛衰期があったとされる。そして応永三年紀室禅師が入寺し臨済宗に帰し遠州奥山村大本山方広寺派に属し山号を奥山寺号を蔵興寺と改称した。この寺の本尊は文武天皇の御代に南海より出現したものであると伝えられており、古来から智恵寺授与の霊仏として一般の信者が非常に多かったという。

慶長六年伊奈備前守の検地の時にこの寺の由来がお目に入られたとかで寺中家屋敷の分も合わせて二石半黒印に成し下された。このため慶安元年から大献院様から御朱印を賜り、歴代の将軍家からは御判物を頂戴したという。

元の虚空蔵堂は高瑞祖眞和尚の代、すなわち寛暦元年に建立され、欅丸柱屋根及び茅葺内部は内外陣に分かれており江戸時代の寺建築の特徴を有していたといわれているが昭和二十年六月十八日の戦火によって焼失してしまった。しかし幸いにも、本尊薬師像は無事であったという。以上新橋虚空蔵寺の縁起である。去る二月十三日の大祭には、二百軒もの露店が軒を並べ、参拝者も十万人を越えた。普段はうらさびれた感じのする虚空蔵寺もこの日ばかりはダルマを買う人、合格祈願の人達でごった返し、身動きもままならぬほどであった。

米津浜の砲台

米津町に伝わる伝説である。

☆　☆　☆

「最近、アメリカ、イギリスなどの黒船、日本の各地を窺がっている。貴港に於ても、海岸に砲台を作り、黒船近づきたらば、直ちに砲撃せよ。」

弘化四年（一八四七年）五月当時諸外国から、開国通商を強要されながらも、依然として、鎖国主義を続けようとする徳川幕府は、浜松藩主井上河内守正直に対しても、こう言う外国船打払いの命令を通達してきたのであった。

井上河内守は、「尤も次第、早速にも」と驚く、兵法学者として全国的にも知られている、部下の藩士岡村圭之進に、「普請奉行となって、米津浜海岸に早急に三ヶ所の砲台を作れ」と命じた。

「承知いたしました。」

虚空蔵寺の遠磨像

圭之進は翌日、配下の武士十数人を連れて、浜松の南の米津村の海岸に行った。

そして地形を調査し、海岸に近い砂山の、遠浅な位置を選定して、地元の百姓達を役夫に使って、砲台の築造にかかった。

圭之進は兵法学者だけに、当時としては、目をみはる程の大砲台を思われるのであった。

「なる程、これなら…」

農民も、又藩の武士達も感心するのだった。

こうした同型の砲台を、嘉永元年（一八四八年）九月までに東、中、西の三基を作ったのである。

そしてこの砲台にはこれ程の「お台場役」と言う井上藩の武士十三名宛併せて六十六人が昼夜交替で勤務しているのであった。

そして万一外国船が接近に近づけば、各砲台一発宛、三発の威嚇発砲をし、それでも接近づいて来るときは、砲撃して撃沈してもいい事となっていた。

だからお台場役人は、

「近寄ると、あぶないぞ。」

と、戦争のつもりで張り切っていたという。

だが黒船の外国船は、幾回となく沖合を航行したが、この米津浜には、一度も上陸する気配を見せたことはなかった。だがら張り切っているだけで、一度も砲撃を撃つ事はなかった。

併しこの大威張りの砲も、砲弾は丸い石の玉、試みに撃ってみると、漸く波打ちぎわまでしか届かなかったという。

太平洋戦争の昭和十九年頃、米軍が米津浜に上陸すると言って、竹槍を持って戦々恐々としていたのと、大部よく似ている。

今米津浜に残る砲台跡は、中台場が一つのみ、周囲七メートルの小丘とは、緑の松が茂って小さい記念碑が建っている。

大砲は姿を見せないが、砲弾は一個だけ、浜松市立新津小学校にある。直径約十二センチ程の、花崗岩を丸くしたものだ。尚、大砲は何処から持って来て、最後はどう処分されたか、よく分からない。

☆　☆　☆

この他にも民話はかなり発見することができる。たとえば、同じく米津町の「米津地蔵」「米津浜の人魚」の話、新橋町の「沼田川の怪物」の話など、いろいろある。

こうして読んでみると伝説や民話というものもなかなか面白いものである。理屈ぬきに楽しめるところがよいのであろう。

こういった話を読んで興味を覚えたら、自分なりに自分達の町に伝わる伝説、郷土芸能などについて調べてみると、面白いと思うのだが。

編集後記

実先生渡中

暖冬と言われ例年にない暖かさとぽうぽうに、共通一次という新制度に立ち向かわなければならない受験生の方々や、就職難のなかで自分に適した職業を目指す方々にとっては、厳しい寒さであったようです。卒業されたあとも、この試練を糧として大いに活躍していただきたいものです。

今年度はなぜバスケットをはじめとして各部の活躍が目立ち、それまでおあまりパッとしなかった我が校の部活動も活気をおびてきています。校訓である「最善をつくそう」は、勉学だけの為のものでは決してありません。この校訓を胸に刻み込んで、今後もより一層部活動に精励していってほしいものです。

我が新聞部も、今学期は学校行事も少なく取材集めに四苦八苦しました。内容に乏しい感があったので、我が校とは目と鼻の先にあり、毎年受験シーズンになると祈願者たちで賑わう蓬莱寺を取り上げてみました。中学三年のときこの南校をみつめながら赴いた生徒も多いのではないでしょうか。是非読んでください。

我々新聞部員は現在、先輩の方々から受け継いだ伝統を守りつつも、新鮮な企画を試みようと努力しています。その為には諸者の、みなさんの意見が是非必要です。批判、感想、何でもいいですからどしどしお寄せ下さい。

就職，進学用鞄・スポーツバックは
浜松駅前　辻梅鞄店
TEL 52－6015

連尺〝新店〟誕生
●1階売場が2倍に拡がります。文芸書・専門書の充実にご注目ください。
●20万冊の蔵書空間（ライブラリィ）です。　●インテリアは白と黒に統一。
谷島屋連尺新店
YAJIMAYA

チーズケーキとチョコレートケーキ
ヨーロッパケーキの
まるたや
浜松・鍛冶町大通り
☎ 52－1496

IKEYAファミリークラブ
イケヤの社員が1枚1枚心をこめて選びぬいた名曲名演奏のレコードをそろえてみませんか…
◎クラシックコース　12巻　¥30,900
◎ポピュラーコース　8巻　¥29,000
◎ファミリーコース　10巻　¥32,600
お申込みと同時に一括お手もとへ…。あとは月々3,000円のお支払いでOK！すばらしい記念品もプレゼント
レコード・楽器
イケヤ
本店／浜松市田町有楽街☎(0534)52－5151㈹
鍛冶町店／遠鉄名店ビル店／ユニー泉町店／磐田店／袋井店／掛川店／藤枝店